

熊本市現代美術館は開館以来、「九州・熊本作家を応援する」というテーマのもと、様々な作家を紹介し、九州各県の美術館やオルタナティブなアートスペースとの交流を続けてきました。九州新幹線が全線開業し、熊本市現代美術館も開館10周年を迎える本年、九州各県に根ざして活躍し、発信している若手作家を、改めて発掘し紹介します。本展覧会は、九州のアートを、九州の縦軸と横軸、点から線へ、そして面へとネットワーク化し、発信・紹介していくことを目的としています。(坂本顕子 / 熊本市現代美術館主任学芸員)

アーティスト・トークのお知らせ
 2012年9月22日(土) 14:00～
 (参加作家によるアーティスト・トークを実施します。)

田中千智
Chisato Tanaka

1980年、兵庫県生まれ、福岡育ち。2005年、多摩美術大学美術学部絵画学科油画科卒業。主な個展に2009年「さまようエトセトラ」(九州日仏学館、福岡)、2012年「FLASH BACK NIGHT」(ギャラリー現、東京)、主なグループ展に2012年「VOCA展2012—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)、「WATAGATA ART FESTIVAL」(福岡アジア美術館、福岡)など。闇を思わせる黒を基調とした背景に揺らめく人物、風景を描き、桜庭一樹『傷痕』の装丁にも作品が使われている。



「落ちて来る月と幻の城」2012年

福岡

VAROC
VAROC

2002年、佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程に在学中のメンバーを中心に活動をスタートさせる。一過性、イベント性、エンターテインメント性、ライブ感、空気感といった「音楽」が持つ特徴のようなものを重視し、平面や映像などを含むインスタレーションとして発表する。また2009年からは佐賀の中心市街地で行われるアートプロジェクト「呉福万博」の中心グループとして活動。参加した展示・プロジェクトには、2004年「NOISE」、2005年「MOBS」、2006年「警鐘夜」、2008年「カマドウマ」「呉楽横町」、2009年「VAROC」、「2」(呉福万博2009)、2010年「39.5℃」(呉福万博2010)、2011「解毒」、 「TOXIN」(呉福万博2011)などがある。



佐賀

永山真策
Shinsaku Nagayama

1974年長崎県生まれ、2002年愛知県立芸術大学美術研究科油画専攻、2003年同研修課程修了。主な個展に2010年「portrait」(ギャラリーモモ両国)、2012年「portraits」を自身が主宰するギャラリー18(長崎)で行う。主なグループ展に2009年「白昼夢」(愛知県美術館ギャラリー)、2010年「陸離として」(代官山sedona)などがある。近年、キャンバスに油彩で印象的な後ろ姿の女性像を手がけてきたが、最新作ではモノトーンの人物ポートレートを徹底的な写実、細密描写で手がける。



「Amy」2012年

長崎

国本泰英
Yasuhide Kunimoto

1984年大分県生まれ、2006年九州産業大学芸術学部美術学科卒業。主な個展に2009年BASE GALLERY、2010年gallery Fukuda、2011年銀座三越、gallery M.A.Pなど。主なグループ展に、2008年「トーキョーワンダーウォール」(東京都現代美術館)、GEISAI#11 (東京ビッグサイト)、「井上絢子+国本泰英」(konya-gallery)、2011年「まちなかアートギャラリー福岡」等。水泳やトレッキング、パラシュートといったスポーツに興じる人物像や、子ども、若い男女などのシルエットのみで描くことで、私たちに新たな風景を想起させる。



「untitled」2010年

しまうちみか
Mika Shimauchi

1987年熊本県生まれ、崇城大学大学院芸術研究科彫刻コース在学。個展に2012年「ABOUT A TREE」(Lionel Wendt Gallery、スリランカ)、「Lesson」(つなぎ美術館、熊本)、主なグループ展に2011年「高瀬蔵彫刻展」(高瀬蔵、玉名)、「SoDA×川尻-勝野真言ディレクション-」(くまもと工芸会館)、2012年「接展」(崇城大学ギャラリー、熊本)。彫刻的な技術をベースに、立体、平面、インスタレーション等、様々な表現に意欲的にチャレンジする。本展出品作は県内の畜産農家で実際に死んだ家畜を取材し、2.8メートルの立体に仕上げた。



「Lesson」2012年

熊本

宮城壮一郎
Souichiro Miyashiro

1979年宮崎生まれ、沖縄、香川、東京での修行を経て帰郷。2008年に塗匠「漆工藝宮城壮一郎」、2009年に美術意匠集団「CRAFTJUNKIEZ」を設立。個展、公募展を軸に注文制作、店舗内装、特殊漆塗装、漆工修理等を手がける。ステートメントとして「そして嘘のない仕事、ホンモノのある生活、ハードコアであること。knave of hearts & real things, for real life」をあげ、漆工芸品制作を軸としながら、漆の持つ可能性を広く追求する。



宮崎

宮内裕賀
Yuka Miyauchi

1985年、鹿児島県大隅半島生まれ。タラデザイン専門学校卒業。2005年頃に近所のおじさんが釣ってきたイカの美しさや美味しさに魅了され、以来ひたすらイカの絵を描き続けている。2010年、KTS主催の第14回ナマ・イキVOICE アートマーケットにてグランプリ受賞。2012年4月、福岡アジア美術館交流ギャラリーにて個展「イカ展」開催。期間中、ホテルオークラ福岡の3つのレストランとコラボシカフェア開催。2012年、GEISAI#16(東京)出展。



「田んぼイカ」2009年

鹿児島

儀間朝龍
Tomotatsu Gima

1976年沖縄県生まれ。1999年、名古屋芸術大学日本画コース卒業、翌年、同大研究生版画コース修了。東京、NYを経て那覇を拠点に国内外で活動。近年はダンボールを一枚一枚に分け、シンプルな紙を生む「SIMPLE PAPER MADE」を考案。2011年より文具ブランド「rubodan(ルボダーン)」を展開し、D&DEPARTMENTで扱われるなど、広くアイデアの普及を行う。2012年個展「INTERNATIONAL OKINAWA」(GALLERY point-1、那覇)、また、ベトナム、タイ、フィリピンにて高齢者、障害者の方々の「SIMPLE PAPER MADE」のノートや紙袋、メッセージカードの制作プロジェクトを展開。



「INTERNATIONAL OKINAWA」2012年

沖縄

※CAMK(キャンク)→熊本市現代美術館Contemporary Art Museum, Kumamotoの愛称です。

※ギャラリーⅢは、九州・熊本を中心に活躍する幅広いジャンルの作家を応援するスペースです。 ※画像はすべて参考作品です。